

[紹介]

名誉会員：浦昭二先生のご紹介

松平和也

先生は昭和 27 年に東京大学応用数学科を卒業され、昭和 37 年に理学博士になられています。慶應義塾大学工学部（当時）初代管理工学科科長の故山内二郎先生が新学科を創るにあたり、口説いて慶應に来ていただいたとお聞きしております。学科の目玉講座である電子計算機の先生でした。最初の講義をお聴きした時、先生は 34-5 歳ぐらいであったのでしょうか。初印象は、ハンサムでとても優秀なそして厳しい数学の先生という感じでありました。

私が高校を卒業時のクラス担任も数学の先生でした。その先生はソフトボールが好きで打つのは好きでしたが走らないので私は代走をよくやりました。何故かと言うと数学の苦手な私はその先生に気に入られるにはどうしたらよいか本能的に反応しておりました。

さて、電子計算機の将来性について着目したのは実は、私の母でした。“和也、誰もやらない学問をやりなさい”とけしかけたのです。そこで母に弱い私は、盲目的に“電子計算機大好きだ”と先生に宣言したのです。ところが、先生に FORTRAN を教えていただいているうちに愕然としました。元来、論理的にできていない頭と不精な性分である私はすぐにボロをだしました。先生にはたちまち見抜かれました。先生の研究室にはクラスの 3 名のマドンナ（美人女子学生）が全部入り、しかもあと二人の男子は緻密な市川君（静岡大学教授）ともう一人でした。これでは付け入る隙は無く、それからは、必修科目ですから単位さえ取れば良いと言う作戦で接したのでありました！

Kazuya Matsudaira

(株) プライド (創立者)

PRIDE Japan Inc. Founder.

[紹介] 2008 年 5 月 7 日受付

© 情報システム学会

研究室の名簿を見ると、竹並情報システム学会副会長は勿論、佐伯東大名誉教授、土居学術会議第四部副部長、北城情報システム学会会長等学会だけでなく日本の産業界の名士を輩出しているのです。安西慶應義塾塾長も大学院では浦先生の弟子だったのです。あまりに多すぎてここにお名前を出しきれません。

こんな私が、先生のご紹介の文を書くことになるとはいかなる運命なのか、よくよく考えて思いついたことは次のことです。先生と私の間には何時も人（人々）が居ることに気づいたのです。ロンドンのブロードウェイミュージカル“ミスサイゴン”を見た時は奥様と三人で。新潟情報大学では竹並先生や市川先生そして故柴田君（会の設立に努力してくれた）達と一緒に。学会でも北城会長や理事の皆様と。HIS 研究会でも神沼理事や細野前理事（慶應義塾大学名誉教授）の皆さん。

先生は人間が大事だと何時もおっしゃっております。この主張は人間への愛であり限りない信頼なのであります。システムというと、とかく冷たい電子計算機を想起させますが、先生のシステム観には常に人間尊重の哲学が厳然とあるのです。情報システム学会の理念は人間尊重を謳わねばならないのです。人が人を繋ぎ、先生の居られるところに情報が集まる。それも貴重な情報がそっと置かれている。培風館で出版した『情報システムハンドブック』などはまさにそのほんの一部です。

優しさと厳しさが同居した場“情報システム学会”が創られてドンドン大きくなっていく。そのような場の中心に気恥ずかしげに浦先生が静かに微笑んでいらっしゃる。会の創立者である先生には、いつまでも名誉会員として当学会の発展を見守っていただきたいです。学会が蛇行した時はお得意の“FORTRAN”の“GO

TO”命令で方向変換を指示いただきたいです。理事全員が何時までも師事いたしたく願っております。

著者略歴

[学歴] 1965 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業。1968-1972 同修士課程在籍。2006 静岡大学創造科学技術大学院博士課程入学現在三年目。

[職歴] 1965-1975 社団法人能率協会コンサルティング部門にて経営コンサルタント修行。以降 PRIDE 方法論の普及とその事業化に全力投球。1970 日本で初認可のソフトウェア

SCERT を技術導入しソフトウェアの販売。

[支援の道を開拓] 1975 日本で初のノウハウパッケージである方法論の技術導入, そのユーザ会を組織し現在もユーザ会を継続中。2000 以降, 日本発のソフトウェア輸出を狙い数社のベンチャー企業を育成中, 2007 から一社が米国へ輸出販売に成功。

[学会活動] 2007 情報システム学会理事就任。2008 日本コンペティティブインテリジェンス学会副会長。